

えてよく振り混ぜるとき、液は中性である。

(2) 塩化物 本品 0.5 g を希エタノール 25 mL に溶かし、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.01 mol/L 塩酸 1.0 mL に希エタノール 25 mL、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.071 % 以下)。

水分 6.0 % 以下 (0.2 g, 直接滴定)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

定量法 本品約 0.1 g を精密に量り、200 mL の三角フラスコに入れ、エタノール (95) 10 mL に溶かし、水酸化ナトリウム試液 10 mL を加え、還流冷却器を付けて 10 分間煮沸する。冷後、希硝酸 40 mL 及び正確に 0.1 mol/L 硝酸銀液 25 mL を加え、よく振り混ぜ、ニトロベンゼン 3 mL を加え、沈殿が固まるまで激しく振り混ぜた後、過量の硝酸銀を 0.1 mol/L チオシアン酸アンモニウム液で滴定する (指示薬: 硫酸アンモニウム鉄 (III) 試液 2 mL)。同様の方法で空試験を行う。

0.1 mol/L 硝酸銀液 1 mL = 5.915 mg $C_6H_5Cl_3O$

貯法 容器 気密容器。

ケイガイ

Schizonepeta Spike

SCHIZONEPETAE SPICAE

荊芥穂

本品はケイガイ *Schizonepeta tenuifolia* Briquet (*La-biatae*) の花穂である。

性状 本品は細長い穂状を呈し、長さ 5 ~ 10 cm, 径 0.5 ~ 0.8 cm, 帯紫緑褐色~緑褐色である。花穂は細かい唇形花又はしばしば果実を含むがく筒を付ける。花穂の下部にはときに葉を付けることがあり、葉は線状又は狭ひ針形である。花軸は方柱形で紫褐色を呈する。ルーベ視するとき、類白色の短毛を認める。

本品は特異な芳香があり、口に含むとわずかに清涼感がある。

確認試験 本品の粉末 2 g に水 20 mL を加え、よく振り混ぜた後、蒸留し、留液 3 mL をとり、これに 2,4-ジニトロフェニルヒドラジン・エタノール試液 2 ~ 3 滴を加えるとき、だいたい赤色の沈殿を生じる。

灰分 11.0 % 以下。

酸不溶性灰分 3.0 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 8.0 % 以上。

軽質無水ケイ酸

Light Anhydrous Silicic Acid

本品は定量するとき、換算した強熱物に対し、二酸化ケイ素 (SiO_2 : 60.08) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色~帯青白色の軽い微細な粉末で、におい及び味はなく、滑らかな触感がある。

本品は水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品はフッ化水素酸、熱水酸化カリウム試液又は熱水酸化

ナトリウム試液に溶け、希塩酸に溶けない。

確認試験

(1) 本品 0.1 g に水酸化ナトリウム試液 20 mL を加え、煮沸して溶かし、塩化アンモニウム試液 12 mL を加えるとき、白色ゲル状の沈殿を生じる。この沈殿は希塩酸に溶けない。

(2) (1) の沈殿にメチレンブルー溶液 (1 → 10000) 10 mL を加え、次に水で洗うとき、沈殿は青色を呈する。

(3) 白金線輪にリン酸水素アンモニウムナトリウムの融解球をつくり、これに本品を付け、再び融解するとき、球中に不溶融の塊を認め、その融解球は冷えると不透明となり、網目状の模様を生じる。

純度試験

(1) 塩化物 本品 0.5 g に水酸化ナトリウム試液 20 mL を加え、煮沸して溶かし、冷後、必要ならばろ過し、水 10 mL で洗い、洗液をろ液に合わせ、希硝酸 18 mL を加えて振り混ぜた後、水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は、0.01 mol/L 塩酸 0.15 mL に水酸化ナトリウム試液 20 mL、希硝酸 18 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.011 % 以下)。

(2) 重金属 本品 0.5 g に水酸化ナトリウム試液 20 mL を加え、煮沸して溶かし、冷後、酢酸 (31) 15 mL を加えて振り混ぜた後、必要ならばろ過し、水 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は水酸化ナトリウム試液 20 mL にフェノールフタレイン試液 1 滴を加え、液の赤色が消えるまで酢酸 (31) を加えた後、鉛標準液 2.0 mL、希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (40 ppm 以下)。

(3) アルミニウム 本品 0.5 g に水酸化ナトリウム試液 40 mL を加え、煮沸して溶かし、冷後、水酸化ナトリウム試液を加えて 50 mL とし、ろ過する。ろ液 10 mL を量り、酢酸 (31) 17 mL を加えて振り混ぜ、アルミニオン試液 2 mL 及び水を加えて 50 mL とし、30 分間放置するとき、液の色は次の比較液より濃くない。

比較液: 硫酸カリウムアルミニウム十二水和物 0.176 g を水に溶かし 1000 mL とする。この液 15.5 mL に水酸化ナトリウム試液 10 mL、酢酸 (31) 17 mL、アルミニオン試液 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする。

(4) 鉄 本品 0.040 g に希塩酸 10 mL を加え、水浴中で 10 分間振り混ぜながら加熱する。冷後、L-酒石酸 0.5 g を加え、振り混ぜて L-酒石酸を溶かした後、以下第 2 法により検液を調製し、B 法により試験を行う。比較液には鉄標準液 2.0 mL を加える (500 ppm 以下)。

(5) カルシウム 本品 1.0 g に水酸化ナトリウム試液 30 mL を加え、煮沸して溶かし、冷後、水 20 mL 及びフェノールフタレイン試液 1 滴を加え、液の赤色が消えるまで希硝酸を加え、直ちに希酢酸 5 mL を加えて振り混ぜた後、水を加えて 100 mL とし、遠心分離又はろ過して澄明な液を得る。この液 25 mL にシュウ酸試液 1 mL 及びエタノール (95) を加えて 50 mL とし、直ちに振り混ぜた後、10 分間放置するとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。

比較液: 180 °C で 4 時間乾燥した炭酸カルシウム 0.250 g を希塩酸 3 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。この液 4 mL に希酢酸 5 mL 及び水を加えて 100 mL